



子どもの目、子どもの心

6年生が道徳「21世紀へのメッセージ ー雨森芳州ー」の学習を通して、「外国の人々と交わりを大切にして、相手の国や文化や人の心を尊重し、相手の国のことを理解する」ことについて考えました。

- 雨森芳州は日本のために、命をかけて考えてくれたりして、すごいなあと思いました。大人の人たちは、ぼくたちが将来大人になったらということ pensando 戦争などをしなげないようしてくれているので、ぼくたちもその気持ちを守り、平和な国を続けていかないといけないと思いました。
- ぼくは幕府の行動がおかしいと思います。朝鮮通信使を迎えるような時は、朝鮮の人に喜んでもらえるような招待をしなければならないと思います。またこれからも友好が深まるような行動をぼくたちもしなければいけないと思います。
- 日本の過去を知って、今思うと、とてもふくざつな気持ちになります。雨森芳州が考えるように、相手の国を理解していつまでも平和な国でいてほしいなあと思いました。そのために私たちが大人になって平和を守っていかないといけないと思いました。戦争をしたら絶対悲しみだけが待っています。だから自分たちも平和を築いていきたいです。
- 外国の国々と仲良くするために、大切なことはもっとお互いの国を理解することだと思った。今まだ戦争やテロが絶えないけれど、お互いの国を理解しあうことで、これからは戦争のない平和な国にしていきたいと思った。
- 相手の国々と仲良くするためには、相手の国のことをまず知ることが大切だと思う。そして、友だちと仲良くするためには、まず名前を教えあって何事も相手のことを知っていくことが大切だなあと思った。